青年の規範意識、道徳的認知および行動基準の関連

藤澤文

(鎌倉女子大学児童学部)

キーワード：規範意識、道徳的認知、行動基準

The relationships of social norms, moral cognition, and Standard for Public Scale in adolescent

FUJISAWA Aya

(Kamakura Women's University)

Key words: social norms, moral cognition, behavior standard

問題と目的

近年、若者の規範意識が問題として取り上げられることが少なくはない(例：平成20年度版青少年白書)。規範意識は高すぎる場合には道徳と慣習が分化していないと否定的に捉えられたり、あるいは、低い場合には本人自身に害(例：未成年の飲酒・喫煙)をもたらす行為につながると考えられることもある。そこで、青年の規範意識の様相について実証的に明らかにすることは教育的にも意義があると考えられる。本研究では、教職課程に在籍する青年を対象として、道徳的認知(道徳性)、5つの行動基準(菅原ほか、2006)を取り上げ、規範意識とどのように関連するのかについて明らかにすることを目的とする。

方法

調査協力者：関東の私立大学の教職課程2クラスに在籍する大学2年生229名であった(男性=178名、女性=51名、 $M=19.1$, $SD=0.4$)。

調査手続き：授業中に質問紙調査が3回(①行動基準尺度、②道徳的認知(道徳性)、③規範意識)にわたり、承諾者のみに集団実施された。

調査内容

行動基準尺度：菅原ほか(2006)による公共場面における行動基準尺度(20項目)を実施した。「自分本位」、「仲間のセケン」、「地域的セケン」、「他者配慮」、「公共利益」という5つの下位尺度(合計20項目)からなる。

道徳的認知(道徳性)：日本の青年のために作成された道徳性の認知的側面を測定する日本版DIT(山岸、1985)の縮小版が使用された。

規範意識：藤澤(2011)で使用されている8項目から作成された(「人の物を盗む」、「ゴミのポイ捨て」、「嘘をつく」、「悪口を言う」、「公共の場で騒がしくする」、「授業中の飲食」、「公共の場でメイクをする」、「未成年の飲酒」)。

得点化

行動基準尺度：各項目について、「全く当てはまらない」に1点～「非常に当てはまる」に5点が割り当てられた。

道徳的認知：重要度は「全く重要ではない」に1点、「あまり重要でない」に2点、「いくらか重要」に3点、「かなり重要」に4点、「非常に重要」に5点が割り当てられた。順位評定は「1番重要」、「2番目に重要」、「3番目に重要」、「4番目に重要」の順に順位が割り当てられた。

規範意識：8項目について、「全く悪くない」に1点～「非常に悪い」に6点が割り当てられた。8項目の総計が規範意識得点として使用された。

結果

行動基準、道徳的認知は規範意識を予測するのか

「規範意識」を従属変数、「自分本位」、「仲間のセケン」、「地域的セケン」、「他者配慮」、「公共利益」、「道徳的認知(道徳性)」を独立変数として、強制投入法を用いて重回帰分析を行った。分析に先立ち、投入する独立変数の相関を検討した。その結果、多重共線性の問題はないと考え、全ての変数を分析に用いた。重回帰分析の結果、「地域的セケン」、「他者配慮」が基準を満たして選択された($R^2=0.19$ ($F(6, 125)=4.94$, $p<.001$))。

考察

本研究では、教職課程に在籍する青年期の若者を対象にして、「規範意識」、「道徳的認知(道徳性)」、5つの行動基準(自分本位、仲間のセケン、地域的セケン、他者配慮、公共利益)の関連が検討された。規範意識を独立変数、その他の変数を従属変数とした重回帰分析を行った結果、「地域的セケン」、「他者配慮」が規範意識を予測していた。以上より、周りの人を気にかけたり、周りの評価を気にしたりする行動基準が規範を支持していることが示唆される。その一方、道徳性の発達を示す「道徳的認知(道徳性)」は「規範意識」に関係していないことも示された。この結果は、半田(2000)と一致する。この結果は、「道徳的認知(道徳性)」の高いことが必ずしも規範意識の高さを示すわけではないという理論的見解を実証的に示すものと考えられる。

引用文献

- 半田元子。(2000). 青年期における道徳性と反社会的行動との関連—道徳不活性化メカニズムについての検討—お茶の水女子大学大学院修士論文(未刊行).
- 藤澤文。(2011). 青年の規範の理解における討議の役割—お茶の水女子大学大学院学位論文(未公開).
- 菅原健介・永房典之・佐々木淳・藤澤文・薊理津子。(2006). 青少年の迷惑行為と羞恥心—公共場面における5つの行動基準との関連性—. 聖心女子大学論叢, 107, 59-77.
- 山岸明子。(1995). 道徳性の発達に関する実証的・理論的研究—東京：風間書房.